PIARC TC2.1（世界道路協会　技術委員会 2.1）ベルン会議

PIARC (World Road Association) Technical Committee 2.1 Bern Meeting

萩原　剛 [1]
Go HAGIHARA

1 はじめに

世界道路協会（通称PIARC）は、世界全体の道路技術・道路交通政策の向上を目的として、1909年に設立された国際機関である。PIARCは4年間を1つの活動期間として、戦略計画（Strategic Plan）に定められた4つの戦略テーマ（Strategic Theme）に基づき、世界各国から集まる道路関係の技術者・研究者が、それぞれの専門分野に応じた技術委員会（Technical Committee：TC）を組織して調査・研究活動を行っている[1)]。

2023年プラハ大会で承認された2024～2027年の戦略計画に基づき、2024年より戦略テーマ2「道路モビリティ」に取り組む技術委員会の一つであるTC2.1「都市部と郊外部のアクセシビリティとモビリティのための道路」の活動が始まっている。TC2.1メンバーのみで集まる初めての会議は、2024年10月28日から30日にかけてスイス・ベルンの連邦道路局（Federal Road Office）で開催された。連邦道路局オフィスのロビーには、高速道路ネットワークの図面や、スイス中央部を南北に貫く「ゴッタルド第2トンネル」の採掘現場から2022年に発見された巨大な水晶の原石（**写真－1**）などが展示されており、いかにも道路局らしい印象を受けた。

写真－１　ゴッタルド第２トンネルの採掘現場から出てきた水晶　約 37kg（執筆者撮影）

写真－２　会議の様子（執筆者撮影）

2 会議について

1日目午後にワークショップが開催され、スイス連邦道路局長からスイスの道路政策に関するアクションプラン等をご紹介いただいた。スイスでは、現状の道路等のスペースを賢く使う取り組みとして、路肩の活用や戦略的な更新が行われていることが紹介された。2日目は、メンバーの自己紹介や検討事項（TOR）の確認が行われ、午後からは3つのワーキンググループに分かれてそれぞれ議論を行った。執筆者が参加したワーキンググループ3は、「渋滞する街路や利用が多い交通インフラにおける交通弱者のモビリティ確保」について議論が交わされ、対象事例の範囲や各国の混雑した街路で生じる大規模事故（スポーツ観戦客の暴動や我が国の雑踏事故）の共有、整理などを行った。3日目はスイス中央部の都市ルツェルンに移動し、交通管制センターの見学や議論のとりまとめを行った。

TC2.1会議は2025年4月にルーマニア・ティミショアラで次の会議が開催されており、次回は2025年秋にモロッコで開催される予定である。

参考文献

1）萩原・西村・粕谷：PIARC（世界道路協会）技術委員会　キックオフミーティング，IBS Annual Report 2024, p.85, 2024.

[1] 交通・社会経済部門　グループマネジャー　博士（工学）